

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (2単位)	3. 科目番号	SJMP6334
2. 授業担当教員	西野 薫		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし・1年次にカウンセリング特論、発達心理学特論を修得していることが望ましい	履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	本講義では、保育・教育現場で実践できるカウンセリングの習得を目指す。まず、カウンセリングの技法を習得するにあたり、自己の対人関係や認知の傾向を知り、それが支援対象者との関係にどのような影響を与える可能性があるか分析を行う。自己理解を深めた上で、個々の能力を最大限に生かした効果的なカウンセリング技能を、個人ワーク・グループワーク・ロールプレイを通して習得していく。また、様々な特性を持つ子どものアセスメントおよび支援方法、さらに、保護者・同僚との連携・支援について深く考察していく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育現場で実践できるカウンセリング技法を習得する。 2. 自己の対人関係や認知の傾向、および、カウンセリングにおける自己の強みを知る。 3. 専門的な配慮が必要な子どもをアセスメントし、具体的な支援方法を検討できる。 4. 保護者支援、チーム連携、日常にカウンセリングの技術を生かすことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃の自分自身を被験者として、自分がどんなときに何を感じているか心の動きをモニターする。 2. これまで学んだ心理学、臨床心理学、発達臨床心理学等について復習しておく。 3. “日常に汎用してみる”とした技法は、実際に活用してみて考察を行う。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】五十音順</p> <p>五十嵐透子『リラクゼーション法の理論と実際 第2版』医歯薬出版</p> <p>井原成男『心のケア 子ども相談の実際—心の基礎づくりから育て直しへ—』日本小児医事出版社</p> <p>河合隼雄『カウンセリング入門 実技指導をとおして』創元社</p> <p>宇安増生『「心の理論」から学ぶ発達基礎:教育・保育・自閉症理解への道』ミネルヴァ書房</p> <p>杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書</p> <p>杉山登志郎・白柳直子『教えて 発達障害・発達凸凹のこと』IAP 出版</p> <p>下山晴彦『臨床心理アセスメント入門』金剛出版</p> <p>高瀬由嗣/関山徹 他『心理アセスメントの理論と実践』岩崎学術出版社</p> <p>融 道男 他 監訳『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン』医学書院</p> <p>日本精神神経学会『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院</p> <p>平木典子『カウンセラーのためのアサーション』金子書房</p> <p>宮口幸治『教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング 122』東洋館出版社</p> <p>米澤好史『発達障害・愛着障害 現場で正しく子どもを理解し、子どもに合った支援をする「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム』福村出版</p> <p>D.W. ウィニコット『遊ぶことと現実』橋本雅雄・大矢泰士(訳) 岩崎学術出版社</p> <p>Ian Stewart『エリック・バーンの交流分析』日本交流分析学会(訳) 実業之日本社</p> <p>Ian Stewart & Vann Joines『TA TODAY—最新・交流分析入門』深沢道子(訳) 実務教育出版</p> <p>J. Piaget『幼児心理学: 1. 模倣の心理学 2. 遊びの心理学 3. 表象の心理学』大伴 茂(訳) 黎明書房</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育現場で実践できるカウンセリング技法を習得している。 2. カウンセリングにおける自己の強みと傾向について考察できる。 3. 事例を通して様々な介入方法があることを知り、柔軟なアプローチ方法を考えられる。 4. アセスメント (心理査定、発達診断を含む) の知識・技能を身につけている。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度 60%、レポート 40%等</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本授業では、ロールプレイやワーク、受講者同士の話し合いを行います。体感的な学習をベースとしているため、演習への積極的参加を求めます。授業内で自身の日頃の体験などを話し合ってもらいますが、そのためには『心理的安全性』が重要です。受講生同士、相手を思いやり、大切にする姿勢そのものが、カウンセリングの基本でもあります。それぞれが安心して話し合える場を作っていきましょう。		
13. オフィスアワー	開始時に提示する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	カウンセリングを学ぶにあたっての自己理解		
【学習の目標】	カウンセリングを習得するにあたってのウォーミングアップ/セルフモニタリングについて学ぶ		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各受講生のこれまで学んできた心理学の知識・習得度を確認する。 2. 自身の認知の傾向や心理フィルターがカウンセリングにどのように影響するか、自己理解・自己分析を深める。 3. 今後の講義全体を通して用いる『セルフモニタリング』について学ぶ。 		
【キーワード】	臨床心理学、発達臨床心理学、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法、交流分析		
【学習の課題】	授業内で提示する。		
【参考文献】	<p>Ian Stewart『エリック・バーンの交流分析』日本交流分析学会(訳) 実業之日本社</p> <p>Ian Stewart & Vann Joines『TA TODAY—最新・交流分析入門』深沢道子(訳) 実務教育出版</p>		
【学習する上での留意点】	生きたカウンセリング技法を学ぶため、自身の日常を題材に考察を深めること。		
2. テーマ	支援者に必要な「視点の柔軟性」		
【学習の目標】	ひとつの事例について様々な反応・捉え方があることを知る。「視点の柔軟性」を身につける。		
【学習の内容】	具体的な事例を通して、受講者同士どのように感じるか話し合い、様々な視点や関わり方があることを体感する。		
【キーワード】	視点の柔軟性		
【学習の課題】	授業内で提示する。		
【参考文献】	宮口幸治『教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング 122』東洋館出版社		
【学習する上での留意点】	自分の感じ方、人の感じ方に「正解」「不正解」はない。この授業は、他者の評価に“囚われないトレーニング”のひとつとして取り組むこと。前回の「自己理解」の授業を生かすこと。		

3 . テ ー マ	子ども理解・人間理解のための基礎
【学習の目標】	カウンセリング特論や発達心理学特論で学んだ内容を復習しつつ、子ども理解・人間理解を深める。
【学習の内容】	特論で学んだ内容に加え、実践で役立つ子ども理解の手法について資料をもとに学ぶ。
【キーワード】	心の理論、発達障害、愛着障害、心のケア
【学習の課題】	授業内で提示する。
【参考文献】	井原成男『心のケア 子ども相談の実際一心の基礎づくりから育て直しへー』日本小児医事出版社 子安増生『「心の理論」から学ぶ発達の基礎：教育・保育・自閉症理解への道』ミネルヴァ書房 杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書 杉山登志郎・白柳直子『教えて 発達障害・発達凸凹のこと』IAP 出版 下山晴彦『臨床心理アセスメント入門』金剛出版 米澤好史『発達障害・愛着障害 現場で正しく子どもを理解し、こどもに合った支援をする「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム』福村出版 D.W. ウィニコット『遊ぶことと現実』橋本雅雄・大矢泰士(訳) 岩崎学術出版社 J. Piaget『幼児心理学：1. 模倣の心理学 2. 遊びの心理学 3. 表象の心理学』大伴 茂(訳) 黎明書房
【学習する上での留意点】	カウンセリング特論、発達心理学特論を修得した学生は全体を復習しておくこと。
4 . テ ー マ	『傾聴』『共感』『受容』とセルフコントロール
【学習の目標】	カウンセリングには、「医学モデル」に基づき治療現場で用いられるカウンセリング(心理療法)と、「成長モデル」に基づき幅広い支援現場で用いられるカウンセリングがある。本講義では、保育・教育の現場で実践できる「成長モデル」に基づいたカウンセリングの習得を目指している。この授業では、「成長モデル」に基づいたカウンセリングの中核である『傾聴』『共感』『受容』の習得を目標とする。また、安定したカウンセリングを継続するための『セルフコントロール』について学ぶ。
【学習の内容】	ロールプレイを交えて、『傾聴』『共感』『受容』について学ぶ。また『セルフコントロール』の実習を行う。
【キーワード】	傾聴、共感、受容、セルフコントロール
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	河合隼雄『カウンセリング入門 実技指導をとおして』創元社
【学習する上での留意点】	『傾聴』『共感』『受容』『セルフコントロール』のスキルは、今後、くり返し授業の中で活用していく。この先の技術習得のベースであることを意識して習得すること。
5 . テ ー マ	心理アセスメント
【学習の目標】	支援対象者の心理を理解するための「アセスメント」の重要性について考察を深め、支援対象者を包括的に理解する技能を身につける。
【学習の内容】	自己の認知の傾向などを把握した上で、模擬事例を通して支援対象者の心理を掘り下げ、心理査定、発達診断の結果などを含めて協議しながら、支援対象者の全体像の理解を深めるトレーニングを行う。
【キーワード】	アセスメントの技法、心理フィルター、支援対象者理解、心理査定、発達診断
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	下山晴彦『臨床心理アセスメント入門』金剛出版 高瀬由嗣／関山徹 他『心理アセスメントの理論と実践』岩崎学術出版社 融 道男 他 監訳『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン』医学書院 日本精神神経学会『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院
【学習する上での留意点】	視野を広げるため、お互いの意見・発言を良く聞くこと。
6 . テ ー マ	心理アセスメントに基づくカウンセリング
【学習の目標】	心理アセスメントは、カウンセリングに生かされて本来の役割を達成する。的確なアセスメントを行い、それをカウンセリングに生かせるように実習を行う。
【学習の内容】	模擬事例をもとにアセスメントを行い、ロールプレイを通してカウンセリングに反映させるトレーニングを行う。
【キーワード】	心理アセスメント、アセスメントに基づいたカウンセリング
【学習の課題】	授業内で提示する。
【学習する上での留意点】	カウンセリングの演習は、今後の授業でも行うため、ここでは、まだ『アセスメント』に重点を置いて取り組むこと。
7 . テ ー マ	模擬事例によるカウンセリング演習 [1]
【学習の目標】	ここまで学んだことを生かし、実践に向けたカウンセリング演習を行う。
【学習の内容】	実際のカウンセリング場面を想定して、本授業では保護者を対象としたカウンセリングのロールプレイを行う。
【キーワード】	カウンセリング演習、保護者
【学習の課題】	授業内で提示する。
【学習する上での留意点】	苦手を感じることや、難しく感じることにアンテナを張り、自分の課題や強みを見つけること。
8 . テ ー マ	カウンセリングの場の設定・子どもの気持ちを聴くスキル [実践編]
【学習の目標】	子どもは言語表現が未成熟である。どのように気持ちを聴くのか、また、どのような環境設定や状況であれば、当該児童は話しやすいのか、個々の児童に合わせた聴き方、場の設定についてロールプレイを通して習得する。
【学習の内容】	模擬事例をもとに、どのような場の設定が望ましいかを考察し、言語が未成熟な児童の気持ちをどのように聴き取るか、ロールプレイを通して体感的に習得していく。
【キーワード】	言語が未熟な子どもとの対話、聴き方、環境設定
【学習の課題】	授業内で提示する。
【学習する上での留意点】	実際の現場を想像しながら、実現可能なカウンセリングの場の設定、子どもの気持ちの聴き取りについて習得すること。
9 . テ ー マ	カウンセリングの場の設定・保護者の気持ちを聴くスキル [実践編]
【学習の目標】	保護者は年齢層から考え方まで幅広い。様々な状況に対応し、保護者の気持ちを聴き取り寄り添うスキルを習得する。
【学習の内容】	模擬事例をもとに、状況に応じて、どのような場を設定することが望ましいかを考察し、ロールプレイを通して体感的に聴くスキルを習得していく。
【キーワード】	気持ちの聴き取り方、状況に応じたカウンセリングの場の設定

	<p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の現場を想像しながら考察し話し合うこと。自分の心の動きをモニターしながら取り組むこと。</p>
10. テーマ	模擬事例によるカウンセリング演習 [2]
	<p>【学習の目標】 これまで学んだ内容に加え、子ども・保護者、それぞれに対するカウンセリングの場の設定および聴くスキルを活かしてカウンセリング演習を行う。</p> <p>【学習の内容】 模擬事例をもとに、実際に、子ども対象のカウンセリング/保護者対象のカウンセリングの演習を行う。</p> <p>【キーワード】 カウンセリング演習、子ども、保護者</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する</p> <p>【学習する上での留意点】 これまで自分自身が授業内で考察したことを復習しておくこと。</p>
11. テーマ	カウンセリングのためのセルフマネジメント [実践編]
	<p>【学習の目標】 支援を継続する中で、支援者が疲弊してしまうこともある。質の良いカウンセリングを提供し続けるには、セルフマネジメントも必要になる。本授業では、支援者自身の心身のケアの技能習得を目指す。</p> <p>【学習の内容】 実際に演習をしながら、自分に合ったセルフマネジメント法の習得を目指す。</p> <p>【キーワード】 支援者自身の心身のケア、セルフマネジメント</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 五十嵐透子『リラクゼーション法の理論と実際 第2版』医歯薬出版</p> <p>【学習する上での留意点】 効果的なセルフマネジメントの技法は人によって異なる。自分に合ったものを見つけ、日常の中に汎用し、その技法を使いこなせるようにしていくこと。</p>
12. テーマ	カウンセリングの技能を生かした連携・協働 [実践編]
	<p>【学習の目標】 質の高いカウンセリングを提供するためには、職場の人間関係が安定していることも重要である。本授業では、職場内の人間関係を安定させ、連携・協働がスムーズに進むようカウンセリングを生かす技能を身につける。</p> <p>【学習の内容】 現場実習等での受講者自身の体験について話し合いながら、集団をアセスメントすることや、支援者同士の関わりに、カウンセリング技法をどのように生かせるかを話し合う。また、アサーションの技法についても学び、円滑な関係を守りつつ自分の意見を的確に伝える技術を身につける。</p> <p>【キーワード】 連携・協働、集団のアセスメント、アサーション</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する。</p> <p>【参考文献】 平木典子『カウンセラーのためのアサーション』金子書房</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の経験をもとに実感をともなう学習になるよう取組むこと。また、学んだことを日常に汎用し、実際に活用しスキルの習得を確かなものにしていくこと。</p>
13. テーマ	特別なニーズの理解 カウンセリング演習 [3]
	<p>【学習の目標】 発達障害、愛着障害などの特別なニーズを理解し、それに対して、どのようなカウンセリングを行うか話し合う。</p> <p>【学習の内容】 本講義『テーマ3. 子ども理解、人間理解』の資料などを参照しながら、一般的なカウンセリングが通用しない場面において、どのような応用・工夫ができるのかを考え、話し合う。</p> <p>【キーワード】 発達障害、愛着障害、その他</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する</p> <p>【参考文献】 「テーマ3. 子ども理解、人間理解」と同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 模擬事例や話し合いを通して、自分の心がどのように動くか、セルフモニタリングを忘れないこと。話し合ったことを、実践でどのように生かせるか具体的にイメージすること。</p>
14. テーマ	特別なニーズの理解 カウンセリング演習 [4]
	<p>【学習の目標】 パーソナリティ障害や精神疾患などの特別なニーズを理解し、医師が常駐する治療現場ではない保育・教育現場で何ができるのか、カウンセリングの限界と可能性について考察する。</p> <p>【学習の内容】 模擬事例を通して、現場で起こりうる様々な事例について、支援者に何ができるか、何をすべきではないのか、あるいは、必ず行うべきことは何か、考察し話し合う。</p> <p>【キーワード】 パーソナリティ障害、精神疾患、医療連携</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する</p> <p>【参考文献】 「テーマ3. 子ども理解、人間理解」と同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 模擬事例や話し合いを通して、自分の心がどのように動くか、セルフモニタリングを忘れないこと。話し合ったことを、実践でどのように生かせるか具体的にイメージすること。</p>
15. テーマ	模擬事例によるカウンセリング演習 [総括]
	<p>【学習の目標】 この講義で何を学んだかを振り返り、知識・技法の定着を図る。</p> <p>【学習の内容】 模擬事例をもとに、これまでの授業内容のすべてを生かしてロールプレイを行い考察する。</p> <p>【キーワード】 これまでのキーワードすべて</p> <p>【学習の課題】 授業内で提示する</p> <p>【参考文献】 これまでの参考文献すべて</p> <p>【学習する上での留意点】 保育・教育現場での実践、および応用を展望すること。全体を通して、自己理解がどのように深まったか、自己の強みは何かを明確化すること。</p>